

些細なことに驚く力

岐阜教区駐在教導 五辻 元

昨年12月に駐在教導として岐阜教務所に着任いたしました五辻と申します。高山から岐阜に参りまして約1か月が経ちました。生活環境が変わり、覚えることや初めて会う人も多く、緊張しながらも見るもの、聞くことが新鮮に感じられます。ところが、一ヶ月が経ち一年が経つと生活や仕事にも慣れてきて、目新しいことがなくなり、日常の繰り返しに退屈さを感じるようになってくるものです。

しかし、そんな毎日の繰り返しの中にも一瞬、小さなことに気がつくことがあります。ことがあります。道を歩いていて「ああ、こんなところにこんな店があったんだ」とか、「綺麗な花が咲いているなあ」、とか。普段、当たり前にしていて見逃していることが随分あるような気がします。そういうことが人に対しても、あるいは自分に対してもあるのではないのでしょうか。

日常が退屈に感じられるのは、「これはこういうもの、あの人はこういう人」と、毎日していることや出会う人を自分の頭で決めつけ、それを当たり前にしていくからなのでしょう。ある先生は、80歳を過ぎられた誕生日に「初めてこの歳にならせていただきました」と感動をもって語られたそうです。「些細なことに驚く力を取り戻せば一見退屈な日常が輝いてくる」という言葉が響いてきます。

些細なこと、私が当たり前にしていくことが当たり前でなかったと気づくときには不思議な感動と喜びがあります。今、私がここに在るということすらも当たり前ではないのでしょう。南無阿弥陀仏は私の「思い込み」を破るはたらきです。物事や人を決めつけ自分の思いにとらわれている私に「本当にそうか？」と呼びかけてくる声なのです。

聞法生活の中でその声を聞きながら、感動をもって様々なことに出遇っていききたいものです。